

平成28年度

# 全国学力・学習状況調査

北広島市の調査結果（報告）



北広島市イメージマスコット「エルフィン」

北広島市教育委員会

平成28年10月

# 目次

## 1. 今年度調査の概要・内容・・・・・・・・・・4

- (1) 調査目的・・・・・・・・・・4
- (2) 調査対象・・・・・・・・・・4
- (3) 調査の方式・・・・・・・・・・4
- (4) 調査の内容・・・・・・・・・・4
- (5) 調査実施日・・・・・・・・・・5
- (6) 調査を受けた児童生徒数・・・・・・・・5

## 2. 調査結果分析の留意点・・・・・・・・・・5

- (1) 調査結果についての留意点・・・・・・・・5
- (2) 調査結果の掲載方法について・・・・・・・・5
- (3) 調査結果の表示について・・・・・・・・5

## 3. 市内小学校の結果概要・・・・・・・・・・6

- (1) 教科全体の状況・・・・・・・・・・6
- (2) 国語Aの全体的傾向・・・・・・・・・・7
- (3) 国語Aにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上上回った問題・・・7
- (4) 国語Aにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上下回った問題・・・7
- (5) 国語Aにおける無解答率について・・・・・・・・8
- (6) 国語Bの全体傾向・・・・・・・・・・8

- (7) 国語Bにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上上回った問題・・・8
- (8) 国語Bにおける無解答率について・・・・・・8
- (9) 算数Aの全体的傾向・・・・・・・・・・・・9
- (10) 算数Aにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上上回った問題・・・9
- (11) 算数Aにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上下回った問題・・・9
- (12) 算数Aにおける無解答率について・・・・・・10
- (13) 算数Bの全体的傾向・・・・・・・・・・・・10
- (14) 算数Bにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上下回った問題・・・11
- (15) 算数Bにおける無解答率について・・・・・・11

#### 4. 市内中学校の結果概要・・・・・・・・・・・・11

- (1) 教科全体の状況・・・・・・・・・・・・11
- (2) 国語Aの全体的傾向・・・・・・・・・・・・12
- (3) 国語Aにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上上回った問題・・・13
- (4) 国語Aにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上下回った問題・・・13
- (5) 国語Aにおける無解答率について・・・・・・13
- (6) 国語Bの全体傾向・・・・・・・・・・・・13
- (7) 国語Bにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上上回った問題・・・14
- (8) 国語Bにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上下回った問題・・・14
- (9) 国語Bにおける無解答率について・・・・・・14
- (10) 数学Aの全体的傾向・・・・・・・・・・・・14
- (11) 数学Aにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上上回った問題・・・15
- (12) 数学Aにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上下回った問題・・・16
- (13) 数学Aにおける無解答率について・・・・・・16

- (14) 数学Bの全体的傾向・・・・・・・・・・17
- (15) 数学Bにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上上回った問題・・17
- (16) 数学Bにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上下回った問題・・17
- (17) 数学Bにおける無解答率について・・・・・・・・18

## 5. 質問紙調査の結果概要・・・・・・・・・・18

- (1) 小学校児童質問紙調査の結果から・・・・・・・・18
- (2) 中学校生徒質問紙調査の結果から・・・・・・・・20
- (3) 学校質問紙調査の結果から・・・・・・・・22

## 6. クロス集計の結果概要・・・・・・・・・・23

- (1) 小学校児童クロス集計の結果から・・・・・・・・23
- (2) 中学校生徒クロス集計の結果から・・・・・・・・24

## 7. 総評・・・・・・・・・・25

- (1) 小学校学力調査の結果から・・・・・・・・25
- (2) 中学校学力調査の結果から・・・・・・・・25
- (3) 小学校質問紙調査の結果から・・・・・・・・25
- (4) 中学校質問紙調査の結果から・・・・・・・・25
- (5) クロス集計結果から・・・・・・・・26
- (6) 今後の北広島市としての取組・・・・・・・・26

# 全国学力・学習状況調査

## 北広島市の調査結果（報告）

### 1. 今年度調査の概要・内容

#### （1）調査の目的

全国学力・学習状況調査は、以下の①、②の取組を通じ、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することを目的として実施されています。

- ①義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ②学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

#### （2）調査対象

- ・小学校6年生
- ・中学校3年生

#### （3）調査の方式

全国学力・学習状況調査の方式は、「悉皆（しっかい）調査」です。

\* 悉皆調査は「全数調査」とも呼ばれ、集まったデータすべてをもれなく分析する調査のことです。

#### （4）調査の方式

##### ①教科に関する調査（テスト）

平成28年度は、小学6年生は国語、算数、中学3年生は国語、数学の2教科で実施され、各教科で「A」と「B」の2種類の調査が行われました。

A（主として「知識」に関する問題）
・身につけておかなければならない後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など
B（主として「活用」に関する問題）
・知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力 ・様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力 など

##### ②生活習慣や学習環境に関する質問紙調査（アンケート）

児童生徒一人一人を対象にした調査と、各小中学校を対象とした調査の2種類が行われました。

児童生徒に対する調査
・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査など
学校に対する調査
・指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件整備の状況等の調査など

## (5) 調査実施日

平成28年4月19日(火)

## (6) 調査を受けた児童生徒数

### ① 小学校

	国語A	国語B	算数A	算数B
北広島市	551	551	551	551
北海道	40,277	40,264	40,275	40,262
全国	1,021,905	1,021,635	1,021,910	1,021,637

(単位：人)

### ② 中学校

	国語A	国語B	数学A	数学B
北広島市	599	598	597	597
北海道	41,221	41,231	41,236	41,233
全国	996,188	996,365	996,502	996,502

(単位：人)

\* 「北海道」の児童生徒数は公立学校のみ

\* 「全国」の児童生徒数は国立・公立・私立学校の合計

## 2. 調査結果分析の留意点

### (1) 調査結果についての留意点

全国学力・学習状況調査は、国語、算数(数学)の2教科について実施し、また設問は各教科のすべての領域や内容を含んでいません。したがって、調査結果から捉えることができるのは、児童生徒が身につけるべき学力の一部であり、また各学校で行われている教育活動の一部分を見ることであることに留意してください。

### (2) 調査結果の掲載方法について

「教科に関する調査」における平均正答率の数値については、本調査の目的及び実施要領中の配慮事項に鑑みて公表いたしません。

### (3) 調査結果の表示について

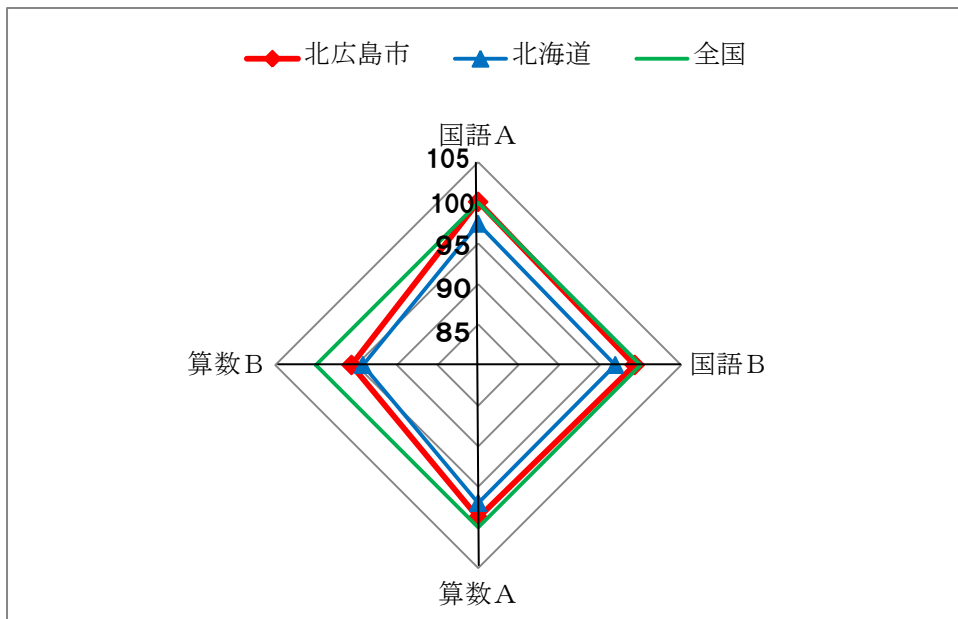
全国の平均正答率との比較を、文言で表記します。

全国平均正答率とのポイント差	表記
+9ポイント以上	高い
+3ポイント以上、+9ポイント未満	やや高い
±3ポイント未満	同様
-3ポイント以下、-9ポイント未満	やや低い
-9ポイント以下	低い

### 3. 市内小学校の結果概要

#### (1) 教科全体の状況

■ 全国平均正答率を100としたときの本市及び北海道の平均正答率



【全国平均正答率，全道平均正答率と本市小学校平均正答率との比較】

	全国平均正答率	全国との比較	全道平均正答率	全道との比較
国語A	72.9%	同様	71.0%	同様
国語B	57.8%	同様	56.0%	同様
算数A	77.6%	同様	75.3%	同様
算数B	47.2%	同様	44.5%	同様

#### 【分析】

☆ 小学校の平均正答率は，すべての教科において，全国平均正答率との差が±3ポイント以内です。平成28年度の調査では，本市小学校では，「全国と同様な状況」です。

#### 【資料 標準化得点の推移】

全国平均正答数を100として，本市の正答数を表記した値を標準化得点と言います。

年度	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
25年度	99	99	99	99	
26年度	101	99	100	99	
27年度	101	98	100	98	99
28年度	101	99	99	96	

※小数第1位で四捨五入

## (2) 国語Aの全体的傾向

	全国平均正答率	全国との比較	全道平均正答率	全道との比較
話すこと・聞くこと	79.2%	同様	77.5%	同様
書くこと	72.8%	同様	69.7%	同様
読むこと	78.5%	同様	77.5%	同様
伝統的な言語文化と国語との特質に関する事項	71.1%	同様	69.3%	やや高い
話す・聞く能力	79.2%	同様	77.5%	同様
書く能力	72.8%	同様	69.7%	同様
読む能力	78.5%	同様	77.5%	同様
言語についての知識・理解・技能	71.1%	同様	69.3%	やや高い

注) 黒字は学習指導要領の領域等，青字は評価の観点を表しています。

### 【分析】

☆国語A（主として知識）の平均正答率は，すべての領域で全国平均正答率との差が±3ポイント以内です。平成28年度の調査では，本市小学校では，「全国と同様な状況」です。

- 学習指導要領の領域等では，「伝統的な言語文化と国語との特質に関する事項」が全道に比して「やや高い」結果です。
- その他の領域等では，いずれも全国，全道ともに「同様」な結果です。
- 評価の観点では，「言語についての知識・理解・技能」が全道に比して「やや高い」結果です。

## (3) 国語Aにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上上回った問題

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等	全国との比較	全国平均正答率
1-1	漢字を読む (快晴だ)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	やや高い	79.3%
1-2	漢字を書く (シタしい)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	やや高い	73.8%

## (4) 国語Aにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上下回った問題

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等	全国との比較	全国平均正答率
8-2	ローマ字を書く (あさって)	平仮名で表記されたものをローマ字で書く	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	やや低い	41.8%



**(5) 国語Aにおける無解答率について**

注)「無解答率」とは、問題を取り組んでいて、途中で解答を断念して解答欄に何も書かない場合を言います。したがって全国と比して「下回る(低い)」状況ほど良い傾向にあります。

○国語Aにおける無解答率は、15問中3つの設問を除いて全国を下回り良い結果でした。

○特に、設問番号「8」(ローマ字を書く、読む)では、全国の無解答率を大きく下回っています。

**(6) 国語Bの全体的傾向**

	全国平均正答率	全国との比較	全道平均正答率	全道との比較
話すこと・聞くこと	51.1%	同様	48.6%	やや高い
書くこと	53.4%	同様	51.5%	同様
読むこと	69.3%	同様	67.6%	同様
国語への関心・意欲	54.7%	同様	52.9%	同様
話す・聞く能力	51.1%	同様	48.6%	やや高い
書く能力	53.4%	同様	51.5%	同様
読む能力	69.3%	同様	67.6%	同様

注)黒字は学習指導要領の領域等、青字は評価の観点を表しています。

**【分析】**

☆国語B(主として活用)の平均正答率は、全国平均正答率との差が±3ポイント以内です。平成28年度の調査では、本市小学校では、「全国と同様な状況」です。

○学習指導要領の領域等では、いずれも全国に比して「同様」な結果です。「書くこと・聞くこと」は全道に比して「やや高い」結果です。

○評価の観点では、いずれも全国に比して「同様」な結果です。「話す・聞く能力」は全道に比して「やや高い」結果です。

**(7) 国語Bにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上上回った問題**

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等	全国との比較	全国平均正答率
2二(1)	「早寝早起き」活動の課題について、〈図2〉の結果を基に書く	目的や意図に応じて、グラフを基に、自分の考えを書く	書くこと	やや高い	51.4%

注)平均正答率が全国に比して3ポイント以上下回った問題はありませんでした。

**(8) 国語Bにおける無解答率について**

○国語Bにおける無解答率は、10問全ての設問において全国を下回り大変良い結果でした。

○特に、設問番号「3三」(目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む)では、全国の無解答率を大きく下回っています。

(9) 算数Aの全体的傾向

	全国平均正答率	全国との比較	全道平均正答率	全道との比較
数と計算	80.5%	同様	77.9%	同様
量と測定	77.0%	同様	76.1%	同様
図形	78.8%	同様	75.0%	同様
数量関係	68.5%	同様	66.5%	同様
数量や図形についての 技能	82.5%	同様	80.2%	同様
数量や図形についての 知識・理解	75.4%	同様	73.0%	同様

注) 黒字は学習指導要領の領域等, 青字は評価の観点を表しています。

【分析】

☆算数A(主として知識)の平均正答率は,すべての領域で全国平均正答率との差が±3ポイント以内です。平成28年度の調査では,本市小学校では,「全国と同様な状況」です。

○学習指導要領の領域等では,すべての項目で全国,全道ともに比して「同様」な結果です。

○評価の観点では,すべての項目で全国,全道に比して「同様」な結果です。

(10) 算数Aにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上上回った問題

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領 の領域等	全国との比較	全国平均正答率
2(2)	4.65+0.3を計算する	末尾の位のそろっていない小数の加法の計算をすることがができる	数量や図形についての技能	やや高い	77.1%
4	8㎡に14人座っているシートについて、1㎡当たりの人数を求めめる式を書く	単位当たりの大きさの求め方を理解している	数量や図形についての知識・理解	やや高い	72.0%

(11) 算数Aにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上下回った問題

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領 の領域等	全国との比較	全国平均正答率
1(2)	2.1÷0.7を、除数が整数になるように工夫して計算するとき、ふさわしい数値の組み合わせを書く	除数と被除数に同じ数をかけても商は変わらないことを理解している	数量や図形についての知識・理解	やや低い	68.5%

2 (3)	18 ÷ 0.9を計算する	小数の除法の計算をすることができる	数量や図形についての技能	やや低い	77.7%
2 (4)	(2/9) × 3を計算する	乗法が整数である場合の分数の乗法の計算をし、約分することができる	数量や図形についての技能	やや低い	87.0%
3 (2)	7, 1.7, 7.01の中で一番小さい数と、一番大きい数を書く	数の大小関係を理解している	数量や図形についての知識・理解	やや低い	74.1%
7	直方体において、示された面に垂直な面を選ぶ	直方体における面と面の位置関係を理解している	数量や図形についての知識・理解	やや低い	78.0%

### (12) 算数Aにおける無解答率について

口算数Aにおける無解答率は、16問中3つの設問が全国と同様で、他の設問においては全国を下回り大変良い結果でした。

### (13) 算数Bの全体的傾向

	全国平均正答率	全国との比較	全道平均正答率	全道との比較
数と計算	44.4%	同様	41.7%	同様
量と測定	43.7%	同様	42.0%	同様
図形	36.3%	同様	35.1%	同様
数量関係	42.9%	同様	39.9%	同様
数学的な考え方	40.9%	同様	38.7%	同様
数量や図形についての技能	53.3%	やや低い	48.5%	同様
数量や図形についての知識・理解	69.5%	同様	66.7%	同様

注) 黒字は学習指導要領の領域等、青字は評価の観点を表しています。

### 【分析】

☆算数B（主として活用）の平均正答率は、1領域を除いてほぼ全国平均正答率並みです。

○学習指導要領の領域等では、いずれも全国、全道に比して「同様」な結果です。

○評価の観点では、「数量や図形についての技能」が全国に比して「やや低い」結果です。その他の観点等では、いずれも全国、全道に比して「同様」な結果です。

(14) 算数Bにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上下回った問題

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等	全国との比較	全国平均正答率
1 (2)	正方形の縦の長さを2cm短くし、横の長さを2cm長くすると面積が4cm <sup>2</sup> 小さくなることの説明を書く	示された説明を解釈し、用いられている考えを別の場面に適用して、その説明を記述できる	量と測定	やや低い	45.2%
2 (1)	ハードルとハードルの間が5mのコースのスタート地点から4台目のハードルを、巻尺の何mのところの位置に置けばよいか書く	ハードルの数とインターバルの数の関係を指揮に表し、4台目のハードルの位置を求めることができる	数量関係	やや低い	56.2%
3 (1)	三つの式についてそれぞれの式が何を計算しているのかの説明文を書く	乗法や除法の式の意味を解釈することができる	数量関係	やや低い	62.6%

注) 平均正答率が全国に比して3ポイント以上上回った問題はありませんでした。

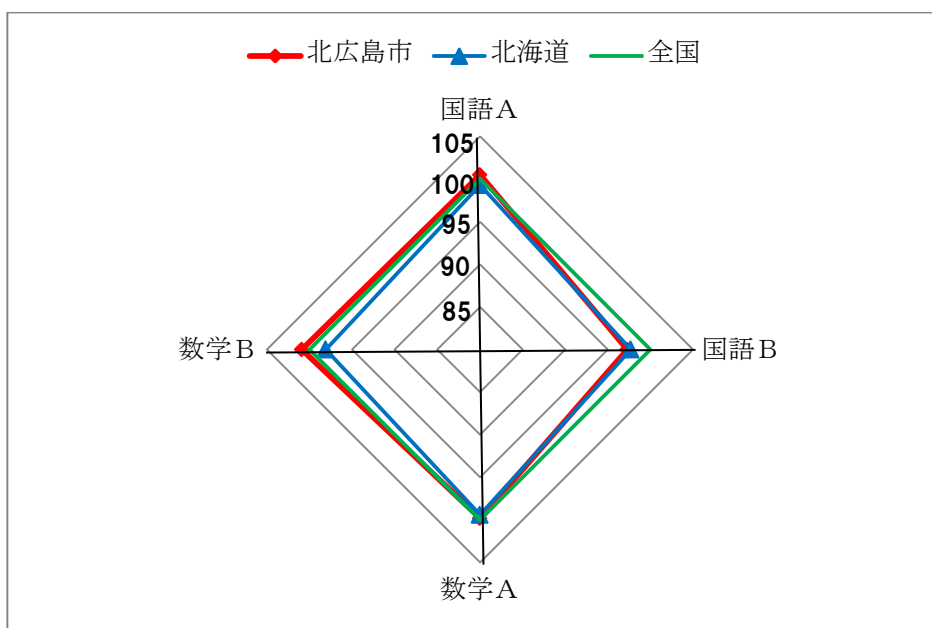
(15) 算数Bにおける無解答率について

口算数Bにおける無解答率は、13問中3つの設問が全国ほぼ同様で、他の設問は全国より下回り大変良い結果でした。

4. 市内中学校の結果概要

(1) 教科全体の状況

■ 全国平均正答率を100としたときの本市及び北海道の平均正答率



【全国平均正答率、全道平均正答率との本市小学校平均正答率との比較】

	全国平均正答率	全国との比較	全道平均正答率	全道との比較
国語A	75.6%	同様	75.1%	同様
国語B	66.5%	同様	65.0%	同様
数学A	62.2%	同様	61.8%	同様
数学B	44.1%	同様	43.3%	同様

【分析】

☆国語A、国語B、数学A、数学Bにおいて、全国平均正答率との差が±3ポイント以内です。平成28年度の調査では、本市中学校では、「全国と同様な状況」です。

【資料 標準化得点の推移】

全国平均正答数を100として、本市の正答数を表記した値を標準化得点と言います。

年度	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
25年度	99	99	100	99	
26年度	98	99	98	99	
27年度	99	100	100	98	107
28年度	101	97	100	101	

(2) 国語Aの全体的傾向

	全国平均正答率	全国との比較	全道平均正答率	全道との比較
話すこと・聞くこと	78.9%	同様	78.1%	同様
書くこと	73.7%	同様	73.3%	同様
読むこと	78.6%	同様	78.1%	同様
伝統的な言語文化と国語 との特質に関する事項	73.9%	同様	73.3%	同様
話す・聞く能力	78.9%	同様	78.1%	同様
書く能力	73.7%	同様	73.3%	同様
読む能力	78.6%	同様	78.1%	同様
言語についての知識・理 解・技能	78.6%	同様	78.6%	同様

注) 黒字は学習指導要領の領域等、青字は評価の観点を表しています。

【分析】

☆国語A（主として知識）の平均正答率は、全ての領域で全国平均正答率との差が±3ポイント以内です。平成28年度の調査では、本市中学校では、「全国と同様な状況」です。

- 学習指導要領の領域等では全ての項目で全国、全道に比して「同様」な結果です。
- 評価の観点では全ての項目で全国、全道に比して「同様」な結果です。

### (3) 国語Aにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上上回った問題

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等	全国との比較	全国平均正答率
7一	相手の発言をどのように聞いているのかを説明したものとして適切なものを選択する	話の展開などに注意して聞き、自分の考えと比較する	話すこと・聞くこと	やや高い	70.6%

### (4) 国語Aにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上下回った問題

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等	全国との比較	全国平均正答率
4二	質問に対する答えが明確になるように適切な言葉を書く	伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く	書くこと	やや低い	78.7%

### (5) 国語Aにおける無解答率について

□国語Aの無解答率は、33問中6つの設問で全国よりやや高い無解答率でしたが、他の設問は全国と同様か下回る良い結果でした。

□設問番号「4二 質問に対する答えが明確になるように適切な言葉を書く」が、全国に比べてやや高い無解答率でした。

### (6) 国語Bの全体的傾向

	全国平均正答率	全国との比較	全道平均正答率	全道との比較
書くこと	58.3%	同様	56.1%	同様
読むこと	66.5%	同様	65.0%	同様
国語への関心・意欲・態度	58.3%	同様	56.1%	同様
書く能力	58.3%	同様	56.1%	同様
読む能力	66.6%	同様	65.0%	同様

注) 黒字は学習指導要領の領域等、青字は評価の観点を表しています。

### 【分析】

☆国語B（主として活用）の平均正答率は、すべての領域、観点で全国平均正答率との差が-3ポイント以内です。平成28年度の調査では、本市中学校では、「全国と同様な状況」です。

- 学習指導要領の領域等では、全ての項目で全国、全道ともに「同様」な結果です。
- 評価の観点では、すべての項目で全国、全道に比して「同様」な結果です。

(7) 国語Bにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上上回った問題

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等	全国との比較	全国平均正答率
2三	宇宙エレベーターについて疑問に思ったことと、それを調べるために必要な本の探し方を書く	課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考える	書くこと 話すこと	やや高い	49.2%

(8) 国語Bにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上下回った問題

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等	全国との比較	全国平均正答率
1三	ちらしの表と裏の表現の工夫とその効果を書く	文章の構成や表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを具体的に書く	書くこと 話すこと	やや低い	68.0%
3三	図鑑の説明を読むことで、よく分かるようになった物語の部分と、その部分についてどのようなことが分かったのかを書く	本や文章などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く	書くこと 話すこと	やや低い	57.7%

(9) 国語Bにおける無解答率について

□国語Bの無解答率は、9問中3つの設問で全国より高く、6つの設問で同様かやや低い無解答率でした。

□特に設問番号3三「図鑑の説明を読むことで、よく分かるようになった物語の部分と、その部分についてどのようなことが分かったのかを書く」が、全国と比べて高い無解答率でした。

(10) 数学Aの全体的傾向

	全国平均正答率	全国との比較	全道平均正答率	全道との比較
数と式	65.9%	同様	64.7%	同様
図形	67.1%	同様	66.0%	同様
関数	52.0%	同様	52.7%	同様
資料の活用	56.5%	同様	58.7%	同様
数学的な技能	66.9%	同様	66.0%	同様
数量や図形などについての知識・理解	56.8%	同様	57.1%	同様

注) 黒字は学習指導要領の領域等、青字は評価の観点を表しています。

【分析】

☆数学A（主として知識）の平均正答率は、全ての領域、観点で全国平均正答率との差が±3ポイント以内です。平成28年度の調査では、本市中学校では、「全国と同様な状況」です。

○学習指導要領の領域等では、全ての項目で全国、全道に比して「同様」な結果です。

○評価の観点では、すべての項目で全国、全道に比して「同様」な結果です。

(11) 数学Aにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上上回った問題

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等	全国との比較	全国平均正答率
1 (2)	−5、0、1、2、5、4の中から自然数を全て選ぶ	自然数の意味を理解している	数と式	やや高い	40.6%
2 (2)	$(2x + 5y) + 3(x - 2y)$ を計算する	整式の加法と減法の計算ができる	数と式	やや高い	84.0%
3 (2)	一元一次方程式 $x + 12 = -2x$ を解く	簡単な一元一次方程式を解くことができる	数と式	やや高い	47.2%
3 (3)	縦と横の長さの比が5:8の長方形の看板について、縦の長さが4.5 cmのときの横の長さ $x$ cmを決めるための比例式をつくる	具体的な場面における数量の関係を捉え、比例式をつくることのできる	数と式	やや高い	52.3%
7 (3)	図形に成り立つ性質の逆の事柄を完成する	命題の逆を理解している	図形	やや高い	39.1%
9 (2)	比例 $y = 2x$ について、 $x$ の値が1から4まで増加したときの $y$ の増加量を求める	比例の式について、 $x$ の値の増加に伴う $y$ の増加量を求めることができる	関数	高い	39.4%
10 (2)	一次関数の式から変化の割合を求める	一次関数 $y = ax + b$ について、変化の割合が一定で $a$ の値に等しいことを理解している	関数	高い	54.6%
10 (3)	一次関数のグラフから、 $x$ の変域に対応する $y$ の変域を求める	一次関数のグラフから、 $x$ の変域に対応する $y$ の変域を求めることができる	関数	やや高い	43.0%
12 (2)	ある郵便物の重さについて、デジタルはかりで表示された値を基に、真の値の範囲を選ぶ	測定値が与えられた場面において、近似値と誤差の意味を理解している	資料の活用	やや高い	34.7%



(12) 数学Aにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上下回った問題

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等	全国との比較	全国平均正答率
5 (1)	三角柱において、与えられた辺とねじれの位置にある辺を書く	空間における直線と直線との位置関係(辺と辺とがねじれの位置にあること)を理解している	図形	低い	75.5%
5 (3)	立方体の見取図を読み取り、2つの角の大きさの関係について、正しい記述を選ぶ	見取図に表された立方体の角の大きさの関係を読み取ることができる	図形	やや低い	78.8%
5 (4)	円柱の体積が600 $\text{cm}^3$ のとき、その円柱と底面の円が合同で高さが等しい円錐の体積を求める	円錐の体積は、それと底面が合同で高さが等しい円柱の体積の1/3であることを理解している	図形	低い	49.9%
8	証明で用いられている図が考察対象の図形の代表であることについて、正しい記述を選ぶ	照明の必要性和意味を理解している	図形	やや低い	61.9%
9 (3)	反比例を表した事象を選ぶ	具体的な事象における2つの数量の関係が、反比例の関係になることを理解している	関数	やや低い	42.0%
9 (4)	反比例のグラフから式を求める	反比例のグラフ上の点の座標から、 $x$ と $y$ の関係を式で表すことができる	関数	やや低い	34.5%
12 (1)	読んだ本の冊数と人数の関係をまとめた表から、読んだ本の冊数の最頻値を求める	資料を整理した表から最頻値を読み取ることができる	資料の活用	やや低い	45.5%
13 (2)	1から13までの数字が書かれた13枚のカードから5または11のカードをひく確立を求める	簡単な場合について、確立を求めることができる	資料の活用	やや低い	79.6%

(13) 数学Aにおける無解答率について

□数学Aにおける無解答率は、36問中12の設問で全国より低い結果でしたが、24の設問で全国と比べて高い結果となりました。

口特に、5(4)「円柱の体積が $600\text{cm}^3$ のとき、その円柱と底面の円が合同で高さが等しい円錐の体積を求める」が全国と比べて高い無解答率で、10(2)「一次関数から式の変化の割合を求める」が全国よりも低い無解答率でした。

#### (14) 数学Bの全体的傾向

	全国平均正答率	全国との比較	全道平均正答率	全道との比較
数と式	51.5%	同様	50.3%	同様
図形	33.3%	同様	34.3%	同様
関数	41.4%	同様	41.5%	同様
資料の活用	39.3%	同様	37.8%	同様
数学的な技能	38.9%	同様	37.8%	同様
数学的な見方や考え方	58.5%	同様	58.4%	同様

注) 黒字は学習指導要領の領域等、青字は評価の観点を表しています。

#### 【分析】

☆数学B(主として活用)の平均正答率は、全ての領域、観点で全国平均正答率との差が±3ポイント以内です。平成28年度の調査では、本市中学校では、「全国と同様な状況」です。

- 学習指導要領の領域等では、全ての項目で全国、全道に比して「同様」な結果です。
- 評価の観点では、全ての項目で全国、全道に比して「同様」な結果です。

#### (15) 数学Bにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上上回った問題

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等	全国との比較	全国平均正答率
2(1)	一次関数の表から $x=4$ のときの $y$ の値を求める	条件を基に、表から数量の変化や対応の特徴を捉え、 $x$ の値に対応する $y$ の値を求めることができる	関数	やや高い	59.1%
5(2)	24.5cmの靴が貸し出された回数 $x$ の相対度数を求める式を書く	与えられた情報から必要な情報を選択し、数学的に表現することができる	資料の活用	やや高い	31.1%

#### (16) 数学Bにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上下回った問題

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等	全国との比較	全国平均正答率
5(1)	24.5cmの靴を最も多く買うという考え方が適切ではない理由を、グラフの特徴を基に説明する	資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる	資料の活用	やや低い	47.6%

### (17) 数学Bにおける無解答率について

- 数学Bの無解答率は、15問中3つの設問で全国より低い結果でしたが、12の設問は全国と比べて高い無解答率でした。
- 特に、4(1)「2つの辺の長さが等しいことを、三角形の合同を利用して証明する」が、全国と比べて高い無解答率でした。

## 5. 質問紙調査の結果概要

### (1) 小学校児童質問紙調査の結果から

- ☆北広島市の小学生は、家で学校の授業の復習をしています。
- ☆北広島市の小学生は、家で予習・復習やテスト勉強などの自学学習において、教科書を使いながら学習しています。
- ☆北広島市の小学生は、地域社会などでボランティア活動に参加しています。

#### ①生活習慣

設問番号	質問事項	回答の基準	北広島市の回答率(%)	全国比	全道比
11	普段(月曜日～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか。	3時間以上見ている	34.5	+1.7	-2.0
12	普段(月曜日～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか。	3時間以上している	19.4	+3.4	-1.8
13	普段(月曜日～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。	1時間以上している	21.1	+2.6	-2.1
14	学校の授業時間以外に、普段(月曜日～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。	1時間以上している	63.9	+1.4	+9.2
21	自分で計画を立てて勉強している	「している」「どちらかといえば、している」	70.2	+8.0	+6.7
24	家で、学校の授業の復習をしている	「している」「どちらかといえば、している」	74.6	+19.4	+9.2
25	家で、予習・復習やテスト勉強などの自学学習において、教科書を使いながら学習している	「している」「どちらかといえば、している」	78.8	+14.2	+8.0

#### 【分析】

- ・普段、テレビなどを見たり、ゲーム・携帯をしている時間が全国に比して多くなっています。
- ・普段、1時間以上勉強していると回答した児童の割合が全国に比して高く、さらに自分で計画を立てて勉強していると回答した児童の割合が全国に比して高い状況です。

## ②自分の理解と周囲への意識

設問 番号	質 問 事 項	回答の基準	北広島市の 回答率(%)	全国比	全道比
36	地域社会などでボランティア活動に参加したことがある	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	67.9	+7.2	+4.9
39	学校のきまりを守っている	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	91.6	+0.1	+1.2
41	人が困っているときは、すすんで助けていますか。	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	79.3	-5.3	-3.4
42	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	98.0	+1.4	+1.2
43	人の役に立つ人間になりたいと思う	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	93.9	+0.1	+0.7

### 【分析】

- ・学校のきまりを守って生活をしていると回答した児童の割合は全国同様高い状況です。
- ・人が困っているときは、すすんで助けるは全国・全道に比して低い状況です。
- ・いじめは、どんな理由があってもいけないことと思っている児童の割合が全国に比してやや高い状況です。
- ・将来、人の役に立つ人間になりたいと思っている児童の割合が全国に比してやや高い状況です。

## ③授業や教科の学習

設問 番号	質 問 事 項	回答の基準	北広島市の 回答率(%)	全国比	全道比
53	授業のはじめに目標（めあて・ねらい）示されていたと思う	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	85.4	-2.2	+1.2
54	授業の最後に学習内容を振り返る活動をよくおこなっていたと思う	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	75.0	-1.1	+2.5
55	授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていたと思う	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	84.1	-3.8	+1.9
61	国語の勉強は好きだ	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	52.8	-5.5	-5.7
62	国語の勉強は大切だ	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	90.4	-0.9	-1.3
63	国語の授業の内容はよくわかる	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	79.9	-0.8	-1.0
71	算数の勉強は好きだ	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	61.9	-4.1	-2.2
72	算数の勉強は大切だ	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	92.2	+0.3	+0.8
73	算数の授業はよくわかる	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	78.9	-1.4	+1.1

## 【分析】

- ・国語・算数の勉強は好きだと回答した児童の割合が全国・全道に比してやや低い状況です。
- ・国語の勉強は大切だと回答した児童の割合が全国・全道に比してやや低いですが、算数は大切だと回答した児童の割合は全国・全道に比してやや高い状況です。
- ・授業のはじめに目標が示され、授業の最後には振り返りをし、それらをノートにまとめていると回答した児童の割合が、全道に比してやや高い状況ですが、全国に比してやや低い状況です。

## (2) 中学校生徒質問紙調査の結果から

- ☆北広島市の中学生は、地域社会などでボランティア活動に積極的に参加しています。
- ☆北広島市の中学生は、家で学校の復習をよくしています。
- ☆北広島市の中学生は、学校の規則を良く守っています。

### ①生活習慣

設問番号	質問事項	回答の基準	北広島市の回答率(%)	全国比	全道比
11	普段(月曜日～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか。	3時間以上見ている	20.1	-4.0	-5.7
12	普段(月曜日～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか。	3時間以上している	17.8	-1.1	-5.3
13	普段(月曜日～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。	1時間以上している	50.7	+2.9	-1.2
14	学校の授業時間以外に、普段(月曜日～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。	1時間以上している	62.5	-5.4	+0.7
21	自分で計画を立てて勉強している	「している」「どちらかといえば、している」	46.2	-2.0	-2.0
24	家で、学校の復習をしている	「している」「どちらかといえば、している」	62.1	+11.1	+5.7

## 【分析】

- ・普段、テレビなどを見たり、ゲーム・携帯をしている時間が全国に比して低くなっています。
- ・普段、1時間以上勉強していると回答した生徒の割合が全国に比して低く、さらに自分で計画を立てて勉強していると回答した生徒の割合が全国・全道に比して低い状況です。

## ②自分の理解と周囲への意識

設問 番号	質 問 事 項	回答の基準	北広島市の 回答率(%)	全国比	全道比
28	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	66.6	+0.8	+2.7
30	新聞を読んでいますか	「ほぼ毎日読んでいる」「週に1～3回程度読んでいる」	21.8	+3.5	+1.5
36	地域社会などでボランティア活動に参加したことがある	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	76.0	+5.8	+6.7
39	学校のきまりを守っている	「当てはまる」	67.5	+5.9	+8.3

### 【分析】

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心があると回答した生徒の割合が全国・全道に比して高い状況です。
- ・新聞を読んでいると応えた生徒の割合が全国・全道に比して高い状況です。

## ③授業や教科の学習

設問 番号	質 問 事 項	回答の基準	北広島市の 回答率(%)	全国比	全道比
48	授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思う	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	86.6	+2.3	+3.6
61	国語の勉強は好きだ	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	59.8	±0	-2.6
62	国語の勉強は大切だ	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	84.9	-4.2	-4.0
63	国語の授業の内容はよくわかる	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	74.1	±0	-1.5
64	読書は好きだ	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	74.2	+3.3	+0.7
65	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	83.2	-1.4	-1.3
71	数学の勉強は好きだ	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	52.5	-3.5	-0.4
72	数学の勉強は大切だ	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	77.9	-2.6	-0.9
73	数学の授業の内容はよくわかる	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	68.6	-0.8	+1.0
77	数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	69.9	-1.6	+0.1

### 【分析】

- ・授業で自分の考えを発表する機会があると回答した生徒の割合が全国に比して高い状況です。
- ・国語、数学の勉強は大切だと回答した生徒の割合が全国・全道に比して低い状況です。
- ・読書が好きだと回答した生徒の割合が全国・全道に比して高い状況です。

### (3) 学校質問紙調査の結果から

◎学校の特徴的な取組（上段：小学校、下段：中学校）

設問 番号	質 問 事 項	回答の基準	北広島市の 回答率(%)	全国比	全道比
36	授業の中で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れている。	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	100.0	+1.2	+2.0
			100.0	+2.2	+6.2
37	授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れている	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	100.0	+5.1	+4.2
			100.0	+11.0	+7.1
34	将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしている	「よく行った」	75.0	+56.6	+51.1
			57.1	+13.6	+9.1

### 【分析】

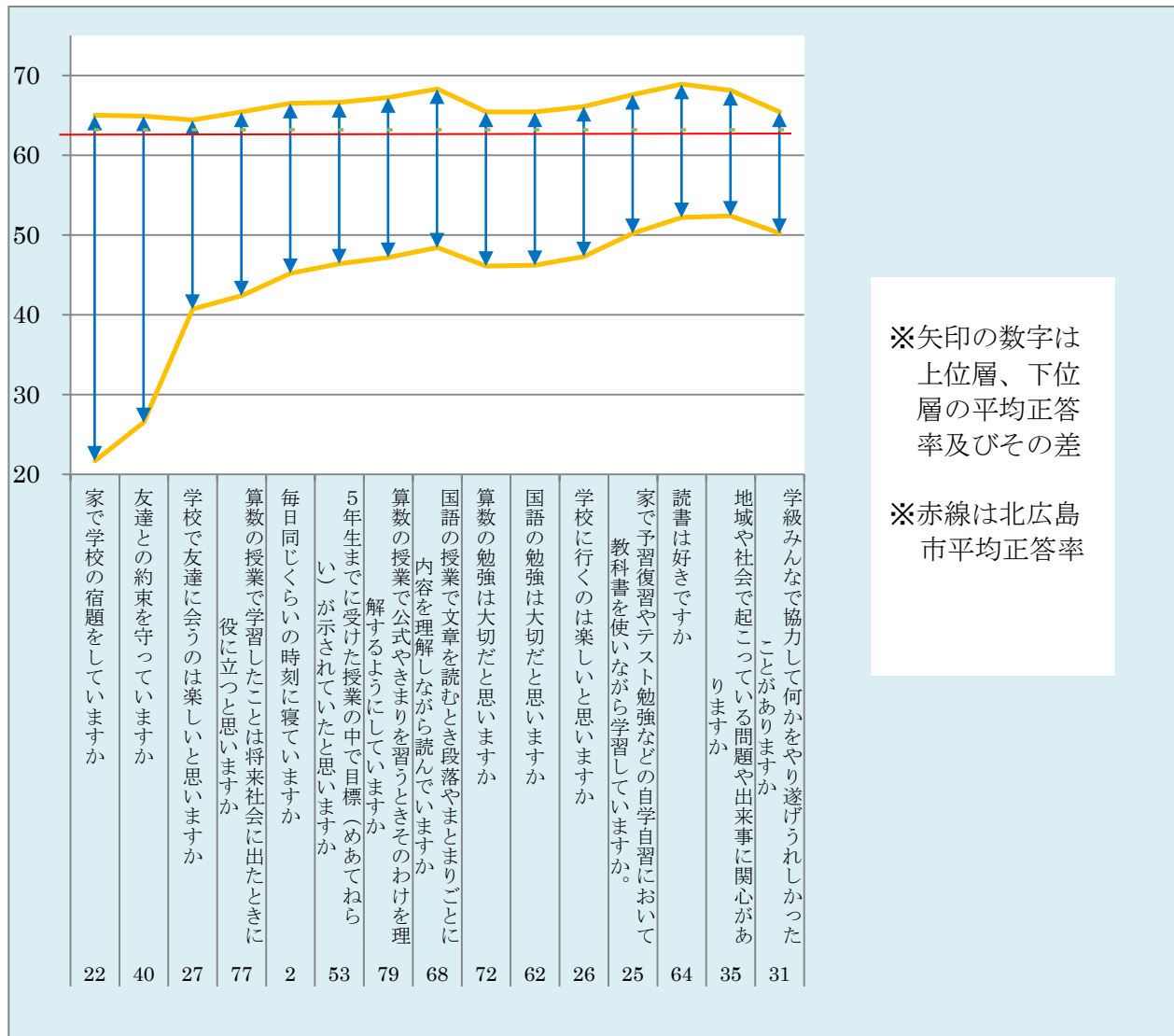
- ・授業の中で目標を示す活動を計画的に取り組んでいると回答した学校の割合が全国・全道に比して高い状況です。
- ・授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り組んでいると回答した学校の割合が全国・全道に比して高い状況です。
- ・将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしていると回答した学校の割合が全国・全道に比して高い状況です。

## 6. クロス集計の結果概要

### (1) 小学校児童クロス集計の結果から

#### ①クロス集計とは

クロス集計とは、複数の項目を比べる統計的な手法の一つです。次の表は、北広島市内小学校6年生の全国学力・学習状況調査の教科の調査結果と児童質問紙の回答結果にどのような相関があるかを表しています。学力との相関が顕著な項目を以下に示します。



#### ②グラフの見方

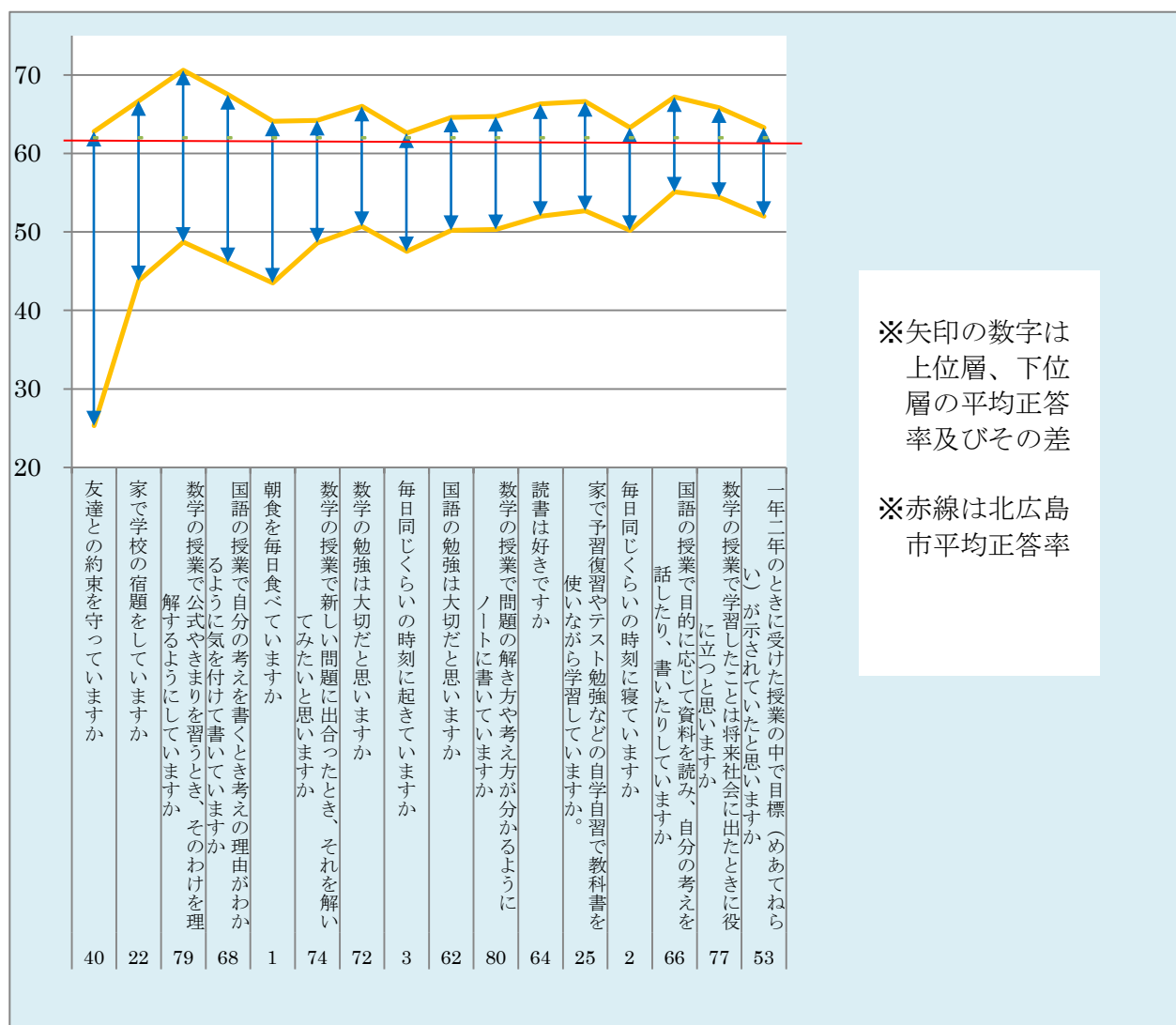
- ・上のグラフで、赤線の「市平均」は、小学校国語A、国語B、算数A、算数Bの市内平均正答率平均値を表しています。
- ・各項目の上下の幅が大きいほど学力との相関関係が高いことを表しています。
- ・例えば、「家で学校の宿題をしていますか」の質問紙で、「している」と応えた児童の方が、小学校国語A、国語B、算数A、算数Bの平均正答率が高い傾向にあると読み取ることができます。



### ③グラフから

- ・家庭生活など、基本的な生活習慣が身につけていると、平均正答率が高い傾向にあるといえます。
- ・学校生活では、授業や学級の活動に積極的に参加するなど、様々な事柄に関心をもって、意欲的に取り組むことと、平均正答率の高さに関係があると言えます。

### (2) 中学校生徒クロス集計の結果から



※矢印の数字は  
上位層、下位  
層の平均正答  
率及びその差

※赤線は北広島  
市平均正答率

### ○グラフから

- ・「友達との約束を守る、朝食を食べる、同じ時刻に起きる」などの生活習慣に関わる項目で、平均正答率が高い傾向にあると言えます。
- ・学習に対して地道に努力する姿勢や積極的に学習する態度が、平均正答率が高い傾向があります。

## 7. 総評

### (1) 小学校学力調査の結果から

- ①学力調査の結果から、本市児童の平均正答率は、国語A、国語B、算数A、算数Bともに全国と「同様」な結果でした。
- ②国語Aでは、全ての領域・評価の観点で全国に比して「同様」な結果でした。漢字の問題は全国に比べて3ポイント以上高く、ローマ字は3ポイント以上下回りました。また、国語Bは、すべての領域・観点ともに全国に比して「同様」な結果でした。
- ③算数Aでは、すべての領域、観点ともに全国に比して「同様」な結果でした。全国に比べて3ポイント以上上回った問題が上回った問題よりやや多い結果でした。また、算数Bでは、全ての領域で全国に比して「同様」の結果でしたが、評価の観点では「数量や図形についての技能」が全国に比して「やや低い」結果でした。全国に比べて3ポイント以上上回った問題はなく3問で下回りました。

### (2) 中学校学力調査の結果から

- ①本市生徒の平均正答率は、国語A、国語B、数学A、数学Bとともに全国に比して「同様」な結果でした。
- ②国語Aでは、全ての領域・評価の観点で全国に比して「同様」な結果でした。また、国語Bでも、領域、観点ともにすべてで全国に比して「同様」な結果でした。
- ③数学Aでは、全ての領域・評価の観点で全国に比して「同様」な結果でした。全国に比べて3ポイント以上上回った問題と下回った問題がほぼ同数ありました。また、数学Bは、全ての領域・評価の観点で全国に比して「同様」な結果でした。

### (3) 小学校質問紙調査の結果から

- ①自分で計画を立てて1時間以上勉強する、家で学校の授業の復習をしている児童が、全国に比して多い結果でした。
- ②地域社会などでボランティア活動に参加したことがある児童が全国に比して多い結果でした。
- ③国語、算数の授業が好きだと思っている児童が全国に比して少ない結果でした。

### (4) 中学校質問紙調査の結果から

- ①普段、テレビを見たりゲームをする時間が全国に比して少ない結果でした。家で学校の復習をしている生徒は全国に比して多い結果でした。
- ②地域社会などでボランティア活動に参加した、新聞を読んでいる、きまりを守っている生徒が全国に比して多い結果でした。
- ③読書が好きと応えた生徒が全国に比して多い結果でした。
- ④国語の勉強は大切だ、数学の勉強は好きだ、大切だと回答した生徒の割合が全国と比して低い結果でした。

## (5) クロス集計結果から

### ①小学校

友達関係も含めて学校が楽しいと感じる児童、宿題にしっかり取り組む児童の平均正答率が高い傾向が見られます。

### ②中学校

生活習慣が良好で、学習態度が真面目で積極的な生徒ほど平均正答率の高い傾向があります。

## (6) 今後の北広島市としての取組

本年度の全国学力・学習状況調査の結果については、本市では概ね全国と同様でした。

学力向上や確かな学力の定着は、一朝一夕には実現することはできません。回り道のようにも教員の日々の研鑽と校内外の組織的・個人的な研究・研修を通して授業改善を図ることが、地道ですが確実な方法であり、子どもたちの学習意欲や喜びに直結したものになります。

今後も、市内小中学校では、児童生徒の実態を的確に把握し、基礎的・基本的な内容を確実に身につけるとともに、発展的な学習についても意図的に取り入れるなど授業についての工夫と改善を一層重ねていきます。

また、結果の分析や改善策については、それぞれの学校で終わることなく、中学校区ごとに小中の課題を共通認識し、

- ・ 学習内容の系統性や重点化を図った授業づくり
- ・ 課題の提示や振り返り場面の設定など小中一貫した授業づくり
- ・ 家庭学習やノート指導の継続など学習方法定着のための指導

など共同で改善策を探る取り組みを進めていきます。

さらに、特別支援教育の充実、ICTの活用、少人数指導やTT指導を進めるとともに、児童生徒の発達段階に応じて「自らを知り、よりよい自分を探る」キャリア教育の実践を通して、「夢を抱き、実現に向けて努力を重ねる」人間形成に取り組みます。

これらのことは学校だけでは実現できないことから、これまで以上に学校、家庭、地域が連携して、本市児童生徒の「学力の向上」に努めていきます。